

# 活動報告書

令和5年2月 22 日

岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ

# 目次

1 岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループについて	P1
2 活動の概要	P2
3 活動を通しての感想(若手職員)	P3
4 活動を振り返って(ファシリテーター:岐阜大学 出村 嘉史教授)	P14
5 提案書	P15

# 1 岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループについて

令和4年度の“岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ”は、政策立案能力の向上と若手職員が活躍する組織風土の醸成を目指し、「岐阜市」「十六銀行」「岐阜大学」の産学官連携体制により、岐阜市職員16人、十六銀行行員3人、岐阜大学学生5人の24人が4チームに分かれ、活動しました。

## ■メンバー 一覧

テーマ	氏名	所属
こどもファースト	牛木 佐耶果	企画部 未来創造研究室
	眞鍋 和裕	都市建設部 都市計画課
	加藤 孝広	市民病院 病院施設課
	鷲崎 大剛	消防本部
	浅川 遼太	岐阜大学
	飯沼 周也	十六銀行
ワークダイバーシティ	関谷 英久	財政部 税事務推進課
	林 洋平	経済部 食肉地方卸売市場
	西尾 知衣允	市民協働推進部 市民活動交流センター
	見廣 篤彦	市民協働推進部 ぎふメディアコスモス事業課
	塚本 満朗	岐阜大学
	松波 匡宜	十六総合研究所
寄り添う福祉	山田 潤一郎	福祉部 福祉政策課重層的支援推進室
	浅野 匠海	環境部 環境保全課
	松久 大樹	まちづくり推進部 公共建築整備課
	横山 滉人	基盤整備部 河川課
	稲熊 健太	岐阜大学
	青木 真穂	岐阜大学
市役所の業務改革	島塚 真	行政部 デジタル戦略課
	加藤 由真	ぎふ魅力づくり推進部 市民スポーツ課
	赤塚 隆彦	保健衛生部 新型コロナウイルスワクチン接種対策課
	眞鍋 充	教育委員会 学校安全支援課
	藤井 汰地	岐阜大学
	福島 裕大	十六銀行

※ 所属：令和4年7月1日時点での所属

ファシリテーター：岐阜大学 出村 嘉史 教授

## 2 活動概要

活動回	活動内容
第1回 (R4.4.27) キックオフ	オリエンテーション / 令和4年度岐阜市当初予算について説明 / 岐阜大学 高木教授による「政策形成研修」を受講
第2回 (R4.5.19)	岐阜大学 篠田教授による「自治体経営研修」を受講 関係課による岐阜市の現状や課題、政策の方針等の説明 グループワーク:岐阜市の現状を把握
第3回 (R4.6.2)	岐阜大学 川瀬助教による「デザイン思考研修」を受講 グループワーク:各テーマのステークホルダーの関係や目標を整理
第4回 (R4.6.30)	ふるさと岐阜市活躍人財バンク 伏見 慎剛氏による講演 グループワーク:各テーマにおける理想の将来像を考察
第5回 (R4.7.8)	個別相談会
第6回 (R4.7.14) 中間発表	提案の方向性の発表 / 関係課からの質疑 / 岐阜大学の先生方からの講評
第7回 (R4.8.12)	ふるさと岐阜市活躍人財バンク 松浦 克太氏による講演 グループワーク:中間発表での指摘を踏まえ、今後の方向性を検討
第8回 (R4.8.26)	個別相談会
第9回 (R4.9.1)	ふるさと岐阜市活躍人財バンク 橋本 晶子氏による講演 グループワーク:プレゼン本番に向け、具体的な施策案の推進方法や予算を検討
第10回 (R4.9.22)	個別相談会
第11回 (R4.9.30)	プレゼンリハーサル
第12回 (R4.10.5) プレゼン	こどもファースト…「こどもの‘want’」と「未来」をつなぎ、オール岐阜で「mirai」を育てる ～中高生のためのサードプレイスの提案～ ワークダイバーシティ…仕事があふれるまち 岐阜 寄り添う福祉…支えあいと GMP 市役所の業務改革…市役所の業務改革
活動報告会(本日)	



(グループワークの様子)



(中間発表の様子)



(プレゼンの様子)

### 3 活動を通しての感想 (個人が特定できないよう、内容を一部変更しています)

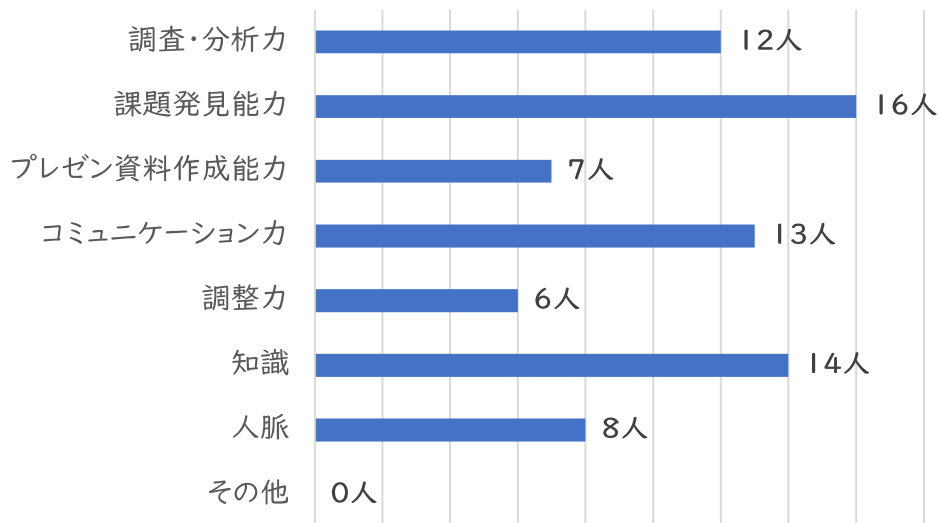
Q1 グループでの役割や、取り組む中で貢献できたことを教えてください。

- ・資料収集、パワポ修正
- ・現場の調査、所属課の専門的なことの知識
- ・グループ内では、チームの意見を聞き、提案に落とし込めるようまとめるなどリーダー的役割を担いました。また、個人としても積極的に意見を出し、チームのみんなの考えを引き出すための頭出しを行いました。結果、実現可能性の高い施策の提案ができたと考えます。
- ・グループのメンバーから出てくる考えやアイデアについて、よりよい提案となるように改善策や伝わりやすいものとなるような提案や二次アイデアの発信をした。基本的には発想やアイデアの発信、創出というよりは目の前にある課題の整理や提案の改善、さらなる提案ができたと思われる。
- ・発表者を担いました。グループ内の調整役も担ったと思いますが、各自が主体的に調査、資料作成を行っていたので、誰が発表者になっても大丈夫だという安心感を常に持てました。
- ・役所経験が長いので他部署との調整も行いやすかったです。
- ・外部とも多少なりともツテがあったことが役に立ちました。
- ・雰囲気づくり、資料づくり、リーダーのサポート
- ・超短時間雇用に関する資料やデータを集めるため、主に障がい福祉課や超短時間ワーク応援センターとのやり取りを行いました。
- ・岐阜市における超短時間雇用の実態や先進市の取り組みについて、実際の話聞くために、超短時間ワーク応援センターや超短時間雇用に早くから取り組んでいる川崎市とオンライン会議を行いました。その際には、日程調整や議事録作成を行いました。また、プレゼン発表用のパワーポイントを積極的に作成しました。
- ・与えられた課題が抽象的であったので、主体的に議論に入っていくことができませんでした。メンバーの中には、結論ありきで議論を進めていってしまう(提案が飛躍しない)人や、リサーチが十分でない人もいた中で、具体性実現性を求めたり本質的な解決策を探す方向で議論を活性化させることができたと思います。一方で、チーム全体で意見を統一することや、全員の意見を取り込んだ形での議論をファシリテートすることができず、数人で議論が行き詰まることが多かったです。そこでの、発想の転換や発展させるスキルが足りなかったと思いました。
- ・グループでは主に連絡と調整を担当しました。
- ・グループワークで出た意見や発表の際に先生方や各課から出た意見、次までの課題をまとめ、共有するようにしました。また、集まる日程や個別の担当分の調べ事等について、各人から聞いてまとめることに注力しました。
- ・政策を練るといことがいかに高度なことかを実感しました。メンバーの話についていくのに必死で、何か貢献できたかという、そうではなかったと思います。
- ・役職としてのリーダーは存在していない中で、あらゆる打合せの日程調整や、打合せ時の司

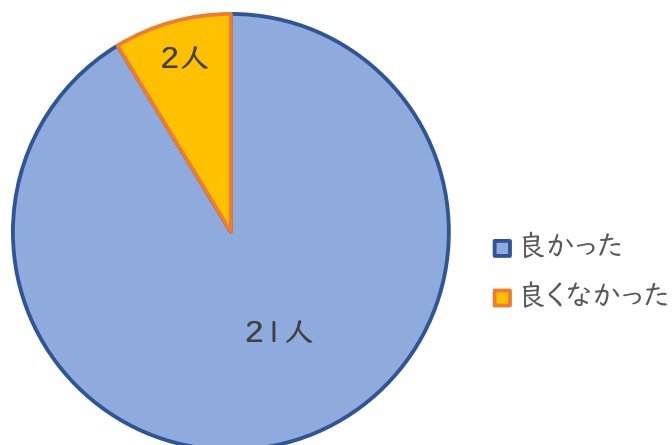
会進行、提案内容の素案作成など、率先的に取り組みました。

- ・今回、十六銀行の行員としてグループに携わる事になり、市役所の業務について、外部の人間として様々な意見交流ができた。
- ・他の行政機関の事例研究や、自分が所属する会社との比較等を通じて課題の抽出をし、グループに貢献する事ができた。また、行政機関の取組を間近で知る事ができ、自分の業務の中でも改善すべき点等を発見する機会になり、グループ一体となり本プロジェクトを通して成長する事ができた。
- ・銀行での営業視点、取引先様からの視点を施策を考えるなかで貢献できたと思います。
- ・ヒアリングの日程調整と実施
- ・大学で得たネットワークを活かしてヒアリング候補を提案し、ヒアリングを実施したこと
- ・発表資料の見やすさについて意見を出したこと
- ・銀行ならではの視点からアイデアを出すことを意識しました。岐阜市出身であることや社会人2年目であることを意見交換の際、活かせたと思います。
- ・中間発表及び市長プレゼンでの発表及び質疑応対
- ・資料集め
- ・プレゼン資料の根拠になるようなデータ収集であったり、それに伴い関係部署・グループ間での連絡調整を行った
- ・グループ内での意見交換や個別相談会等で出たアイデアや課題、アドバイスについてまとめ、グループ内で共有することができた。また、テーマに関連する事例についての調査や想定質問に対する回答案の作成で貢献することができた。
- ・提案内容の企画・資料作成、調査、ヒアリング団体との調整、グループメンバーへの情報提供  
今回のグループワークの中核的な部分については、連携を取りやすい市役所の方をお願いをしていました。自分たち学生組は、アイデアの提案、プレゼン内容に役立つと思われる論文等の情報収集、プレゼン資料の修正箇所の確認等、補佐的な役割を担いました。
- ・グループワーク序盤で、そもそも何のために何を話し合っていくかを設定する段階で方針を提案したり、議論が発散し本筋とは異なる内容になった際に軌道修正するなど、最終的な目的を常に意識して議論を進める補助ができたと思う。
- ・フィードバックなどもらった意見の共有、意見出しなど

Q2 ワーキンググループに参加して、自身のスキルアップに役立つと思うものはありましたか？(複数回答可)



Q3-1 ふるさと岐阜市活躍人材バンク登録者による講話はいかがでしたか？



Q3-2 そのように思う理由を教えてください。

◆良かった理由

- ・普段関われない人の話が聞けてよかった。
- ・垣根を超えたお話を聞くことができた。
- ・多種多様な場面で第一人者として活躍されている方の話は、プレゼンの仕方や資料への落とし込み方などをはじめ多くのことを学ぶことができました。
- ・普段触れることがなかなかない民間の柔軟な発想や、最新の考え方を知ることができ、より幅の広い視点や感覚を養うことができたのではないかと思います。また、時にはいまの自分たちが抱えている問題の解決の糸口となるような話を聞くことができた。

- ・人脈を作るのに最高の機会でした。すでに岐阜市のために何かしたいと考えてくれている方たちとの人脈を築かないなんて勿体ないです。
- ・質疑以外に接点があると良いなと思いました。
- ・トップランナーからの話はためになる
- ・岐阜出身であるため課題感を理解していただける
- ・講話の内容は良かったです。ためになるお話やプロジェクトにつながる内容もあり、勉強になりました。しかし、プレゼン発表に向けて、プレゼン発表に向けた作業やグループ内での会議などやらなければいけないことが多い中で、グループ全員が集まれる日に約2時間、講話に割かなければいけないというのが少し負担でした。開催される時期を5月～6月冒頭のプロジェクトの初期段階にする等、調整していただきたいと思いました。
- ・事務局が講演をセッティングしたいがための時間のようにも感じましたが、行政と民間の新しいありかたを提案し実践する人たちのお話は面白かったです。
- ・公務員とは違う考え方、物の捉え方を聞くことができたため。また、実際に管理職として物事を俯瞰して見る仕事について話を聞くことができ勉強になりました。"
- ・身近な人のなかで、成功事例や失敗事例を聞いてとても参考になりました。岐阜市出身の方で、実際に各地で活躍されている方の講話は、普段の業務では聞くことのできない話が多く、新しい知見を得ることができたからです。
- ・様々な分野の事を詳しく聞いて良かったです。勉強になることが多かったです。
- ・来年社会人になるにあたって、何を考えて働いているかを知ることが役に立つと感じた。
- ・普段の業務中では経験することがないような体験談を聞いたことで今後の業務の中で大きな助けになるだろうと感じた。
- ・普段の業務で得られない話を聞いた
- ・講師が岐阜市にゆかりのある方であったため、岐阜市の地域性を把握されており、内容がより入ってきた。
- ・自分たちのテーマに直接関わる内容でないこともあったが、話の中でテーマに絡んだ内容であったり、質疑応答を通して、テーマに関連した知識や課題解決に向けたアプローチに対する助言を得ることができ、非常によかった。
- ・普段の業務ではなかなか触れることのない内容について、様々な立場の方から経験談を聞くことができ、とても新鮮だった。仕事に対する考え方や現在取り組んでいる事業について話して頂き、視野が広がった。
- ・講話の内容は面白いものばかりでよかったです。しかし、ワーキンググループにほとんど関係ないようなものが多かったと思うので、ワーキンググループの時間を割いて行うものではなかったような気がします。
- ・自分が良いと考えたアイデアを一般的に利用してもらうまでの意識や、岐阜市の特徴を聞いたこと。
- ・自分たちのグループに対してメリットがあったかどうかはわかりませんが、今後の自分のキャリアについて考える機会となり、さまざまな働き方があることを知れたので良かったです。



◆良くなかった理由

- ・業務により、参加できなかったため、講和に参加する事が出来なかった。時間が取れるのであれば、とても有益なものであると思うので、参加したかった。
- ・講話は、普段お会いできない方々の貴重な話をお聞きできる機会だったと感じる。しかし、自分の意識の問題だと思うが、こういった機会と内容をグループ活動や普段の業務にどう生かせばよいかわからなかった。事前に、講話の目的や内容を共有いただければ大変ありがたかった。

Q4 ワーキンググループに参加して、良かったと思うことはありますか？

- ・紆余曲折はあったが、最終的に成果物を完成させることができてよかった。
- ・異業種、垣根を超えた会合の場で自由な発想、過去の経験、専門的なこと等々意見交換する場を持つことができたこと。
- ・人脈が広がったこと。
- ・政策形成のプロセスを学べたこと。
- ・普段の仕事をしているだけでは身につかないような考え方やモノの見方について知り、学ぶことができたことが大きな収穫になったと思っている。また、いろいろな課の人や、大学生、銀行の職員さんなど岐阜市職員だけでなくいろいろな立場の人と一つの問題について解決する経験はあまり多くなく、貴重な体験ができたと思う。
- ・政策立案までの理想的な流れを知ることができたこと。
- ・仲間ができたこと。
- ・同じグループや関連事業課などの方とつながることが出来た。
- ・政策を考えるという、今までに経験したことがないことを出来たのがよかったです。
- ・十六銀行さんや岐大生とも話をする中で、自分の持っていない視点や知識に触れることも出来ました。また、違う課の市職員ともつながりができたのもよかったと思っています。
- ・自分が市役所職員の中に入った時に、議論できたこと、できなかったことがある程度わかりました。市役所業務について考える必要があったため、前提を共有できていない自分はインプットとアウトプットを同時にしながらでしたが、今後業務をする上で必要なスキルのための経験になりました。また、良い意見を発信している人と、本質的な問題についてしっかりと時間をかけて意見をぶつけることができました。
- ・異なる部署の業務について考えることで考えや知識の幅が広がったと感じています。
- ・グループワークを重ねることで色々な課の方々とコミュニケーションをとることができて良かったです。
- ・市長にプレゼンテーションをするという、若い立場ではあまり経験することはできない経験をさせてもらえたことです。当日はもちろんですが、それまでのプロセスにおいても、市長にプレゼンテーションをするということで、提案内容を限界まで深めなければならないという緊張感を持って取り組めたこと自体が、いい経験になりました。

- ・銀行と行政機関は似ている部分が多々あり、お互いに参考にするべき点があると実感した。また、グループの中で都度自分の役割に責任を持ち、対応していく事で、自分事として取り組む力がついた。
- ・様々な角度からの視点を聞くことが勉強になりました。またグループで活動することでチームの一体感が出来て良い体験でした。
- ・事業内容を企画することにとどまらずに、何年目にどれだけの事業費をかけて何をするかなど時間・予算を考えて綿密に事業提案するということを経験できたこと。
- ・様々な視点からの意見や考えを聞くことができた点です。非常に多くの刺激をいただきました。
- ・技術職では機会が少ない政策立案に携われたのは貴重な経験と思った。
- ・政策形成をやる機会がこれまでなかったのが新鮮だった。
- ・今までは、自分自身の業務に取り組むだけでしたが、ワーキンググループを通して、岐阜市がどのようなことに対して重点的に取り組んでいるのか、そのためにどのような政策を進めているのか、今まであまり理解していなかった部分について知るよききっかけになりました。
- ・政策立案の手法について学ぶことができたこと。普段関わることのない部署の職員と一緒に考えることで人脈を作ることができたこと。
- ・プレゼン資料のデザインや構成について腕試しができたこと。
- ・新規事業を起こすのに、社会では、特に市役所のような自治体ではどのような情報やアイデアが必要とされているのかを知れました。また、市役所の方々と実際に会話をする中で、どのような方々が市役所というところで働かれているのわかりました。
- ・自身よりも年上の学んできた分野が異なる方々との交流の中で、その人が過ごしてきた環境だからこそ養われた専門知識や感覚を共有できたため知見を深めることができた。そもそも、今回取り扱ったグループのテーマに対する知識が深まり、グループワークの作業が終わった日常生活の中でも意識するようになった。
- ・様々な立場の人と関わり、それぞれの視点で意見を聞くことで、立場によって重要視する部分が違うことを知りました。お互いを尊重しつつ議論する大切さを知れたので良かったです。

**Q5 ワーキンググループに参加して、不満に思ったこと／改善すべきと思うことはありますか？**

- ・長期間にわたって通常業務に加えて負担が増え、予想以上に大変であった。
- ・テーマの守備範囲が広いと、壮大な政策にもなるし、ちょっとした改善となる政策にもなる、捉え方次第であるため、悩みました。出口が見えづらくなってきます。これが民間企業の製造業だと改善提案、プロセスの改善、作業時間の短縮、品質の向上、製造原価の低減、など、細分化した定番とも言える目標テーマがあるのだが、今回はテーマの守備範囲が広がったです。
- ・本人のやる気が一番大切だと思うので、自薦を推奨することについて異論はありませんが、本人の力量によりチームのメンバーへの負担感が大きくなってしまふこともあるので、各部を代表して参加しているという自覚のある人、各部を代表してこの人なら送り出せると部が責任を

- 持てる人をWGのメンバーとすべきという意識づけを行うべきだと思います。"
- ・全員で集まる講座・ワークショップ形式の研修の時間だけではまともな各個人や独自でのミーティング等が前提となるものであったような気がする。
  - ・ほかのグループではわからないが、取り組む課題の関係部署の人がその課題に取り組むことについて、アドバンテージとディスアドバンテージがほかのひとに比べ大きく、考慮する必要がある気がする。
  - ・岐阜市の既存の取り組みを把握するのに膨大な時間を要しました。中間発表より前に取り組みを把握すべきだと思います。総合政策課から尻を叩くくらいで良いので、どの部署に問い合わせるべきか、早めに相談にのっていただけると有難いです。
  - ・office365のファイル同時編集、パワポ作成のスピードが格段にあがりました。オンラインMTGもTeamsで利便性向上。しかし市役所外との共有がネックとなりました。便利な資料共有のツールを紹介してもらえると各グループで効率が高まると思います。
  - ・発表会で市長を横目に回答する課長の皆様が少し不憫だなと思いました。十分な情報も無いまま着席していることもあり、発表者よりも緊張感ある立ち位置だなと思い、何かしらの方法で事前に情報が渡せるともっともっと建設的な質疑ができるかと思いました。
  - ・発表会に参加していない担当部署の職員へ政策案の詳細を伝えることが難しいです。10分に抑えるためにパワポは簡素ですし、会場にいた課長からも市長の指摘は伝わっても、提案の詳細は伝わっていないんじゃないかなという印象を受けました。
  - ・本業の合間にできる作業ではないです。課員と部内の理解があって初めて全力で取り組めると思います。(幸いにも理解がありました)
  - ・「当該分野に関する政策に反映し、推進する」という目的の達成には、発表前から担当部署と詳細に協議する必要があると考えます。あわよくば事業化ではなく、提案を事業化することをミッションとし、担当部署と協力して政策を立案した方がこのワーキンググループの活動が活きると思いました。敵対ではなく協力です。
  - ・もし研修の意味合いの方が強いなら、発表以外に各回にレポートがあった方が良いと思います。
  - ・メンバーによって作業量が偏る。
  - ・先進都市の出張などの予算も見込んでほしい。
  - ・仕事のため打合せ等に来る回数が少ない職員がいた。職場内でもちゃんと仕事として認識してもらえるとよい。
  - ・スケジュールです。中間発表の時、個別相談会までに発表の資料を作成してくるように話があり、1週間程度しか時間がなく大変でした。しかし、その前は3週間程度空いており、作業もほとんどありませんでした。大学の先生の都合等もあるため仕方がないですが、もう少し考慮していただけるとありがたいと思いました。また、4つのテーマについて、すでに岐阜市として取り組んでおり、実績(数字、データ)があるものをテーマに設定していただけると、取り組みやすいのではないかと思います。"
  - ・会場にフリーWi-Fiが届いていないので、PCを用いてできることが限られました。

- ・当日資料のメールが直前、もしくは事後であることが多く、手元資料も無い時がありました。
- ・学生や十六銀行職員は市職員用のチャットや連絡ツールに含まれていないため、チーム内職員経由で情報が遅れてくることが多かったと思います。Google Drive、LINE グループとメールを主な連絡手段としていましたが、そこにアクセス制限がかかる人や、職員用のプラットフォームで資料共有をされる方もおり、不便な目に合うことが多かったです。事務連絡を含めて外部からの参加者も統一のプラットフォームに入れるなどしていただけると良いかと思います。
- ・全体活動にのみの参加の職員だと、個別の仕事が割り振れませんでした。主体的な発言や参加もなく、個別活動に時間が割けない人を人数に入れられると、一人当たりの負担が増えるので安易に参加させない方が良いかと思います。
- ・職員の中にも人数合わせて来たような方が数名いたため、チーム構成が悪かったと思います。ドタキャンや個別リサーチの不足、どう見てもお粗末な資料、連絡の未返信、意見を言わないなどが常態化していました。
- ・基本的に講義時間の割合が多かったのも、グループメンバーで話し合う時間がもっと欲しかったです。
- ・グループメンバーに偏りが出ないような配慮は必要であると思いました。
- ・ワーキンググループが成り立つための大前提として、グループ内での議論が成り立つことが必要だと思いますが、私のグループでは、それが成り立たないことが多々ありました。難しいとは思いますが、メンバー募集の段階で、ある程度の人材選定をできるような仕組みが必要だと思います。
- ・グループ毎の集まりへの参加が難しい事があり、迷惑をかけてしまった。運営の方よりそのような日にちを設定する事で、業務との並行がやりやすかったと思う。
- ・開催スケジュールが後半に固まってしまったので、もっと分散してほしかったです。みんなで集まる回数もワーキンググループの他に何回も発生し、業務への負担が大きかったです。
- ・岐阜市役所外の関係者へのヒアリングは、私一人で実施することもあった。外部との関係をつくり、現場を知るためにも職員が柔軟に動ける環境があればワーキンググループをするメリットが大きくなると思いました。
- ・特にないですが、強いて言えば月末等繁忙期での開催があった点です。
- ・計7回のワーキンググループがあったが、毎回全体でどのように進めていくかがしっかりと決まっていた。すべてのグループがしっかりとプレゼンできるように全体でやるのが決まっているのはやむを得ないかもしれませんが、ワーキンググループの時間とは別にグループで集まって、さらに議論を進めている場合があります。そのため、グループによっては、その時のワーキンググループで扱う内容の先に進んだ部分で議論を進めている段階や、それ以前の部分でつまづいたりすることがあり、ワーキンググループの時間が有用でないときがあった。グループによってテーマが違い、各段階に費やす時間が違うため、特に回数後半のワーキンググループでは、各グループのテーマに沿った内容で議論する時間を多くとった方がよいと思いました。本来は、各グループでテーマに沿って議論を進める時間は、ワーキンググループ以外でグループで集まって取るべきだとは思いますが、なかなか全員が集まる機会がないので、全員

が集まるワーキンググループの時間でそのような時間をより多く確保していただきたいと思いました。ただし、課題をどのように見つけるのか、課題解決に向けてどのようにして議論を進めていくのか、知識として必要な部分は非常に多くありますので、回数前半では、岐阜大学教授の講義を聞いて説得力のあるプレゼンを行うためのノウハウを得るような時間に充てる必要だと思います。"

- ・どうしても政策立案できる人が限られてしまうため、政策の大枠が決まるまでその人に任せる場面が多くなってしまうこと。
- ・グループ活動において、特定のメンバーに負担が過度に偏ってしまうこと。
- ・やらない者勝ちになること。
- ・市役所メンバーにおいては、部の代表で参加しているという意識が低いこと（年間スケジュールが出ているにもかかわらず、活動を欠席するなど）。
- ・メンバーの選任において、各部署で責任をもってフォローアップする体制が必要（メンバーとなった職員に対し、どのような課題が出て、どのようなプレゼンを考えているかなど最低でも所属長が気にかけるような体制づくりがあるとメンバーの意識が変わると思う）。
- ・進め方について、「4つのテーマ（こどもファースト、ワークダイバーシティ、寄り添う福祉、市役所の業務改善）について考えよ」という形ではなく、テーマに沿って各部署から困りごとや懸案事項を挙げ、それに対し若手メンバーが手法を考えるという構図だと、メンバーが担当課と打ち合わせがしやすいと思う。また、そういったやり方のほうがメンバーの調査不足により、提案した内容が既存事業として存在しているといった提案側も受ける側もマイナスになってしまうようなことを防ぐことができると考える。
- ・「若手」の範囲について、年齢幅をさらに絞ったほうが有意義だと感じる。活動の中で年齢幅が広いがゆえに、負担が偏ったり、グループ内での自由な意見交換が阻害されていると感じた。「入庁から3年以内」や「25歳まで」など限定を厳しくすることで、同世代の職員同士で活発な活動が実現できると感じた。
- ・ワーキンググループの時間外に行うことがあまりに多く、時間を調整して話し合う等が難しかったです。その為、会いやすい方々が中心に進めてくださり、仕事の分量に大きく差ができてしまいました。
- ・次回に内容を発表するかどうか、などの先の予定が明確ではなく、何を準備しておけばいいかわからない時があったので、事前に連絡していただけると嬉しいです。

#### Q6 活動を通しての感想

- ・会合を重ねるにつれ集まるだけでも大変になってきました。職場では各種委員会、GWがあり、皆さん市民のため岐阜市のため活発な活動をしており、岐阜市の発展に貢献したい。
- ・企画部において重要である政策形成を一から学ぶ機会を与えていただき、普段出会うことのないメンバーと一緒に考えをだしあい、ひとつのものを完成させるという経験は楽しかったです。部局横断のプロジェクトチームは今後の市政においても重要だと思うので、今後も続けていただきたいです。

- ・今まで挑戦したことのないような課題や問題について取り組むことができ、貴重な経験ができた。今後の仕事や取り組みに今回の経験を活かし、より充実した市民対応等ができるよう心掛けていきたい。
- ・十六銀行と岐阜大学がメンバーに入っている点が画期的だと思いました。十六銀行メンバーは民間企業の感覚を取り入れてくれ、岐大メンバーは政策提案の道筋を随時修正してくれました。岐阜市職員だけでは提案できない政策が実現することを願っています。これからもこの事業が続いてほしいです。
- ・何度もグループで集まって政策について考えるのは大変でしたが、たくさん意見交換をするのは楽しく、勉強になりました。
- ・提案にあたり、テーマに関する幅広い知識を持つこと、現在と理想の間を埋めるために必要なことが何かを考えることは、どの業務においても必要なことだと思うので、今後に生かしていきたいです。
- ・いい経験になりました。
- ・今後仕事をしていく上でとても勉強になることが多かったと感じています。ただ、思い返すともっとできることがあったのではないかと思うことがあり、もう一度やってみたいと感じています。
- ・ワーキンググループの中で色々な方と交わることができ、その中で自分の知らない知識を幅広く知ることができました。また、政策を練ることの大変さを、身をもって実感することができました。
- ・ワーキンググループを通じて、困難なことの方が多かったですが、それも含めて全体的に良い経験となりました。また、ワーキンググループでの活動中において、個別に相談等受けていただくなど、色々ご配慮いただきありがとうございました。運営の立場としても、色々大変だと思いますが、このワーキンググループを体験した人は、今後の業務においても非常に有意義な経験を得ることができると思いますので、今後も継続できると良いと思いました。
- ・今回のワーキングを通して、銀行員でありながら行政機関の課題解決に向けた取組をすることができ、非常に有益な時間であった。銀行も行政もサービスを提供する事は変わりなく、顧客、市民のためにといった根本的な考え方は同じであり、少しでも役に立つ事が出来たのではないかと思う。また、自分自身も銀行員として、人として成長する機会になり、今回のワーキングに参加させてもらった事に対して非常に感謝するとともに、今後このような機会があればまた参加したいと思った。
- ・みんなで一つのテーマを話し合っグループワークを行うことは凄く良いことだと思います。岐阜市のことを深く知る良い機会だと思いました。
- ・私が参加したチームのテーマは、ほとんど触れたことのないテーマでした。初めは何もわからない状態でただ皆さんに付いていくことしかできませんでしたが、長期のワークであることにより、現状を整理し事例を知ることができたので少しでも貢献することができたと思います。一番の収穫は、事業内容の企画だけでなく、ロードマップや予算などを含め計画することを経験できたことです。新たに事業を始めることの難しさを知ることができて良かったです。
- ・ものすごく貴重な機会をいただきまして本当にありがとうございました。この経験を今後の業

務並びに人生に活かしていけたらと思います。

- ・緊張はしたが大勢の前での発表は実りのある良い機会だったと思う。
- ・企画を提案するのが上手くできなかったのもっと精進したい
- ・「市役所の業務改革」というテーマでプレゼンするにあたり、課内の職員や他部署の職員に市役所の業務で感じることにについて聞き取りをしました。その際、普段の業務では普通だと思っていた方法とは別にもやり方があることに気づくなど、同じ市役所の中でも、部署によって業務の仕方や働き方が全く違うことを非常に感じました。今後、数十年市役所で働くことになると思いますが、業務を効率よく正確に遂行し、かつ市民サービスの向上につなげるためにはどのようにすべきかを常に考えて業務に励んでいきたいと思いました。
- ・最初はワーキンググループに意欲的ではなかったですが、選出された以上はしっかり取り組もうと思いましたし、プレゼンを終えた後は達成感がありました。他のグループのプレゼン等も聞き、市役所のことについてより深く理解するきっかけになったので、やってよかったなと思いました。
- ・テーマに関する事業についての調査、理解から始まり、ステークホルダーを整理した上で課題を発見していくことが大変だった。見えた課題の解決策として、新しさと実現可能性を両立させた案を考えることは難しく、あまりアイデアを出せなかったが、順序立てて政策を考える、非常に良い経験ができ、勉強になった。
- ・全体を通して、とても良い提案ができたと考えており、その過程で新規事業を提案する際の根拠となるものや独創性がどこまで求められているのかを知ることができた貴重な経験であったと考えます。
- ・テーマが抱える課題をグループメンバー全員が熱意をもって本気で解決しようとする姿勢があったからこそ様々な知識を学ぶことができた。大学の講義で行うような「単位が出ればいや」という意識を持った学生と一緒にやるようなグループワークでは得られなかったと思うので、本当に良い経験になった。なかなか難しいことも多かったですが、市役所や十六銀行の皆さんと約半年間プロジェクトを考えることができて、学ぶことが多くとても楽しかったです。ありがとうございました。

## 4 活動を振り返って（岐阜大学社会システム経営学環 出村 嘉史教授）

「岐阜市の未来を共に考えるワーキンググループ」研修に取り組んだ1年間、たいへんお疲れさまでした。一連の活動を振り返って、自分はどんな学びを得たか、いまいちど想いを巡らせていただきたいです。

今回の研修にあたり、皆さんがそれぞれ現実的な壁に突き当たりながらそれを自ら乗り越える術を学んで頂きたかったために、前半は対象とする領域を理解しながら可能な限り視野を拡げる発散的なプロセスとし、後半はそういった中から実現可能な部分へ絞り込んで政策案を具体化させるような、むしろ「面倒くさい」プロセスを採りました。おそらく始める前には、何のこともよく分からなかったに違いありませんが、今や全てを経たみなさんには、その意味するところは、実感としてよくわかるのではないかと思います。

皆さんの反応として、特に成長が感じられた場面がいくつかありました。ひとつは、現在取り組まれている実際の施策には目的の連関があって、それぞれが上位の目的を達するための手段である、という見方で「政策ビジョン」をグループワークで描いてみた時の感触。個別の対策は、ちゃんと大きなネットワークの内に位置付けられているべきことを実感し、その大きな視野（政策）の必要性に気付いたと思います。

それから（わざと）理想に偏らせた提案の中間発表を経た後に、いよいよ現実の問題との間のギャップを冷静に見据えて課題を深化させる際、グループワークや相談会を経る度に、組み立てた枠組みを「リフレーム」することに対する恐怖に打ち克つてきたこと。その連続（たまたに見事な不連続も!）の上に最後のプレゼンがありました。グループの中でも侃々諤々の議論があったことが感じられました。こちらも真剣勝負で、より実効性と社会的意義のある政策になるよう妥協のない意見をぶつけました。とりわけ政策立案者だけでなくユーザー（市民）目線で捉えることの重要性はよく議論しましたね。どのチームもこうしたプロセスひとつひとつを丁寧にフィードバックして、テーマをよく咀嚼して、前向きにリフレームできていたと思います。

こどもファーストはいまある施設をよりアクティブにする提案（寸劇付き!）へ。ワークダイバーシティも個別の施策として進められてきた職務定義支援を福祉政策の普及とカップリングさせる提案へ。これらはいわば政策のリノベーションのような発想に至ったと思います。寄り添う福祉は福祉を包含する社会全体の助けあいのシステムづくりの提案へ昇華。市役所の業務改革はDXとは何かを再度みつめなおし全庁的に実行する提案へ。それぞれ現実性の高い、それでいて高次元の理解を深めた提案に至りました。

一見つかみどころのない問題を捉えて創造性のある政策を考えるには、大きな勇気がいることだと思います。こうしたことを、自分の思い込みの殻を破ってチームのメンバーとともに達成したことは大きな意味をもちます。これからも、きっと多様な主体と協力しながら、楽しく豊かな社会づくりに自信をもって取り組んでいってください!



## 5 提案書

### 提案1【こどもファースト】

「こどもの‘want’」と「未来」をつなぎ、オール岐阜で「mirai」を育てる  
～中高生のためのサードプレイスの提案～

### 提案2【ワークダイバーシティ】

仕事があふれるまち 岐阜

### 提案3【寄り添う福祉】

支えあいと GMP

### 提案4【市役所の業務改革】

市役所の業務改革

# 提案 1

テーマ こどもファースト Group I

「こどもの‘want’」と「地域」をつなぎ、  
オール岐阜で「**ミライ**」を育てる



～中高生ためのサードプレイスの提案～

グループ①  
浅川 飯沼 牛木 加藤 鷲崎 眞鍋

テーマ こどもファースト Group I

こどもが心から笑顔の時、前向き (+) の感情しか抱いていない



こどもが心から笑顔の時、後向き (-) の感情を抱く大人はいない

こんなシーンがたくさん増えれば、**ミライ** は明るい  
そんな **ミライ** をオール岐阜で育てる環境を創りたい

本日のアジェンダ Group I

- 1 社会的背景と岐阜市の現状
- 2 テーマの背景と理想の状態
- 3 提案施策 中高生の秘密基地Gifu Child Freak
- 4 今後の展望/まとめ

1 社会的背景 Group I

時代の変化

年少(0~14歳)人口の推移

2021年	1400万人
2056年	1000万人
2065年	684万人

約1/2

出典：国立社会保障・人口問題研究所  
日本の将来推計人口(平成29年推計)

低い自己肯定感

- 自分は価値ある人間だと思う：8%  
(アメリカ57%、中国47%、韓国20%)  
出典：日本青少年研究所『高校生調査』
- 放課後に週2日以上1人：41%  
(イギリス18%、ドイツ21%、韓国28%)  
出典：『児童の放課後活動の国際比較』

人口減少・少子高齢化に伴う様々な影響  
日本のこどもの心の課題は深刻

1 岐阜市の現状 Group I

人口減少、少子高齢化の進展

人口の推移

2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
1,410,000	1,400,000	1,390,000	1,380,000	1,370,000	1,360,000	1,350,000	1,340,000

20年で **5万人減**

出典：国勢調査(総務省)、2020年以降は岐阜市推計

市税収入の減少、地域の担い手不足

自己肯定感や挑戦心の状況

中3の意欲の推移

2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47

・失敗を恐れなくて挑戦している**47位**  
・夢や目標がある**48位**

岐阜市の結果を47都道府県の順位に当てはめたもの

自己肯定感や挑戦心が低調

まちの変化

- ・柳ヶ瀬周辺エリアでは新規出店が約**150店** (2014~)
- ・まちづくり協議会 **43**協議会設立(H16~)
- 人、団体等の地域資源が増加

2 テーマの背景 Group I

岐阜市未来のまちづくり構想

2040年ごろの将来像  
「人がつながる 創造が生まれる しながやがさのあるまち」

教育・子育ての方向性

「こどもファーストでみんなを笑顔にするまち」

- 命の大切さ
- 子育てへの希望や安心感
- 子どもと教育を中心とするまちづくり
- 教育の再デザイン
- 可能性を広げる幼児教育
- 次代に相応しい高等教育

岐阜市教育大綱 (2020年12月) 教育委員会

岐阜市子ども・子育て支援プラン (2020年3月) 子ども未来部

オール岐阜で取組みを考える

## 2 テーマの背景

Group 1

**子ども取り巻くイメージ**

**地域にはたくさんの資源があり可能性は無限大**

**子どもと地域の関わりからミライが生まれる**

凡例 ○ ……課題 □ ……地域資源

## 2 「現状」と「ミライ」の比較

Group 1

**before**

**after**

**コーディネーター機能をもつサードプレイス**

**'want'は地域の中にある**      **'want'を叶え、後押しする**

## 2 「ミライ」に向けた現状の支援策

Group 1

**子ども向けサードプレイスの箇所数** 各地域に計**65箇所**

小学生以下に限定  
中学生以降は子どもに特化したサードプレイスが少ない

ターゲットは**中高生**

～岐阜市の現状の取組み(サードプレイス)～

名称	概要
青少年会館	社会的自立支援、学びの提供、社会参加の促進を柱に、体験活動を通じて、青少年の自己実現を応援する施設
ぎふメディアコスモス	図書館、市民活動交流センター、ホール、カフェなどを備えた複合施設で、さまざまな人が集まり、学び、繋がる、市民の憩いの場
科学館	プラネタリウムや天文台、動く展示や参加体験のできる展示を主体に子どもも大人も楽しめる知的レジャー施設

## 2 「ミライ」に向けたサードプレイスの考え方

Group 1

**中高生による、中高生のためのゆるい空間**

**中高生の'want'に徹底的に向き合い、熱狂の芽を育てる**

**岐阜市のサードプレイスの新しいスタンダードを創る！**

## 2 「ミライ」に向けたサードプレイスの考え方

Group 1

**新しいサードプレイスのイメージ**

- 居心地のよい自由な場
- きっかけに出会う場
- 挑戦/熱狂できる場

**秘密基地**

**サードプレイスをどこに創るか**

- エリアごとに配置
- 中高生も大人も集りやすい場所

モデル事業の候補地  
**青少年会館**に設定

**コーディネーターに求めること**

- 中高生を主役に考えられる
- 地域との繋がりを開拓できる
- カリキュラム運営やマネジメント

**中高生の意見**

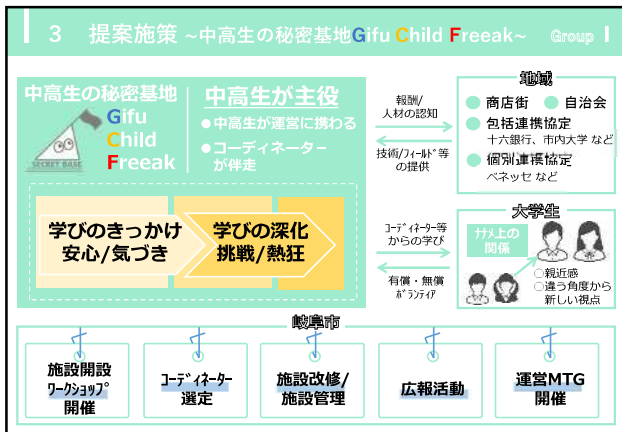
**コーディネーター像を決定**

## 3 提案施策

Group 1

**中高生の秘密基地**

**Gifu Child Freeak**



### 3 STORY Group I

友人に誘われて何気なく「Gifu Child Freeak」を訪れた中学生のアサカワくん。

人工芝で寝転がっておしゃべりする子、真剣な顔でミーティングしている子が目に映る。ここは何をしても良い場所なんだ。

話しかけてくれたのはコーディネーターのサヤカちゃん。サヤカちゃんの明るい声にテンションが上がり、少し自分をさらけ出す。会話が弾む。初めての自分でもただ温かく迎えてくれる居心地の良い空間。

なんとなく、また来たくなった。

### 3 STORY Group I

別の日、アサカワくんは再び「Gifu Child Freeak」へ。

大学生スタッフのイヌマくんは動画編集をかじっているらしい。それを一緒に見て、親しくなったカトウくんも動画編集に興味があり、オンライン講座「地域クリエイター図鑑」をきっかけに来たらしい。自分も施設の機材で動画編集をやってみる。あれ、おもしろッ!

サヤカちゃんつてにまちのクリエイターとつながる。ミライへの扉が開く。

気がつけばすでに半年、今日は友達のスザキが企画した商店街での大運動会。笑顔の撮影と動画編集は俺に任せろ!!

### 3 提案施策 ~中高生の秘密基地Gifu Child Freeak~ Group I

**Book Club**

2019.1.21 Thu 11:00-13:00  
第四本曜日  
b-labの読書会  
vol.52 14歳からの哲学

**探究アソビ場**

3月2日(土) 10:00~17:30

**漫画喫茶**

にちようびの  
みやつびの

中高生の「好奇心」を「行動力」に変える挑戦のステージ

出版：第6日枝市市民教育後援会編資料



### 3 ロードマップ

施設開設ロードマップ…施設を創り上げる過程から大切に、中高生も一緒に企画する

開設前  
施設づくりのワークショップに中高生も参加

施設改修  
解体 設置機 家具づくり

開設後

### 3 ロードマップ

施設開設ロードマップ…施設を創り上げる過程から大切に、中高生も一緒に企画する

開設前  
運営ミーティング

施設改修

開設後

- 中高生が主体的に進めるプロジェクトの企画 → 関連する企業等も交える
- 運営しながら良い方向にブラッシュアップ
- 青少年会館のあり方検討

### 3 財源考察

	準備期間 (R5)	1年目 (R6)	2年目以降 (R7~)																								
ロードマップ	中高生の本音調査 ワークショップ/アンケート 市民団体へのヒアリング 地域の大人との交流 コーディネーター募集・決定 公募、選定委員会により決定 施設改修設計 事業補助金の申請	施設改修 ワークショップ開催 運営開始	継続運営 プロジェクト等の企画 運営ミーティング ブラッシュアップ 青少年会館のあり方検討																								
財源	<table border="1"> <thead> <tr><th>項目</th><th>支出 (千円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>ワークショップ 運営費 (6回程度)</td><td>350</td></tr> <tr><td>コピー (色・黒)</td><td>137</td></tr> <tr><td>設計費</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>合計</td><td>2,087</td></tr> </tbody> </table>	項目	支出 (千円)	ワークショップ 運営費 (6回程度)	350	コピー (色・黒)	137	設計費	1,600	合計	2,087	<table border="1"> <thead> <tr><th>項目</th><th>支出 (千円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>委託費 (コピー/色・黒/白/1人件費)</td><td>6,886</td></tr> <tr><td>施設改修費</td><td>16,000</td></tr> <tr><td>合計</td><td>22,886</td></tr> </tbody> </table>	項目	支出 (千円)	委託費 (コピー/色・黒/白/1人件費)	6,886	施設改修費	16,000	合計	22,886	<table border="1"> <thead> <tr><th>項目</th><th>支出 (千円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>委託費 (コピー/色・黒/白/1人件費)</td><td>10,172</td></tr> <tr><td>合計</td><td>10,172</td></tr> </tbody> </table>	項目	支出 (千円)	委託費 (コピー/色・黒/白/1人件費)	10,172	合計	10,172
項目	支出 (千円)																										
ワークショップ 運営費 (6回程度)	350																										
コピー (色・黒)	137																										
設計費	1,600																										
合計	2,087																										
項目	支出 (千円)																										
委託費 (コピー/色・黒/白/1人件費)	6,886																										
施設改修費	16,000																										
合計	22,886																										
項目	支出 (千円)																										
委託費 (コピー/色・黒/白/1人件費)	10,172																										
合計	10,172																										

補助金：日本財団「子ども第三の居場所」事業補助金の活用  
 運営費→月額60万円以下 (コミュニティモデル) 【補助率100%】  
 整備費→原則上限5000万円 (補助率100%)

### 3 施策の効果KPI

施設の利用者数	5,000人
中高生が企画したプロジェクト数	12件
地域のイベントに参加・協力した数	6件

### 4 今後の展望

モデル事業から全市展開へ

中高生のサードプレイスの増殖

岐阜を動かす中高生の増加  
中高生に関わる大人の増加

### 4 まとめ

中高生の秘密基地で

こどものwantと地域が繋がっていく。

こどもミライ

岐阜のmaraiはここから始まる。

子どもファーストでみんなを笑顔にするまち

Group I



アサカリ



イイスマ



ウシキ



カトウ



スザキ



マナベ

ご清聴ありがとうございました

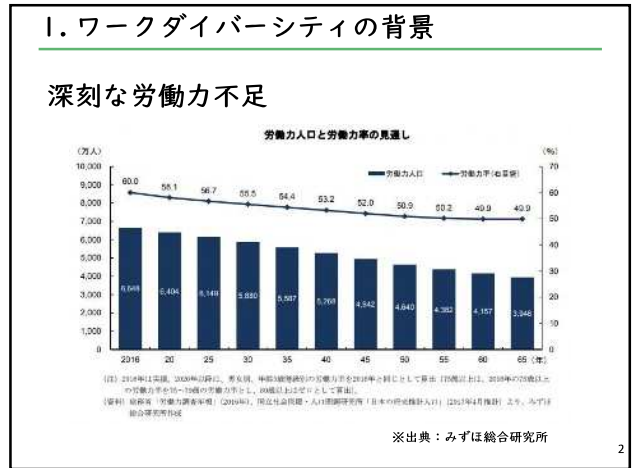
## ワークダイバーシティ 仕事があふれるまち 岐阜



グループ2 メンバー

- ・塚本 満朗 ・林 洋平 ・西尾 知衣 充
- ・見廣 篤彦 ・松波 匡宜 (関谷 英久)

1



### 1. ワークダイバーシティの背景

#### ステークホルダー

#### 求職者

女性 障がい者  
ひきこもり ニート 高齢者 外国人

働きづらさを抱える多様な人々

1500万人

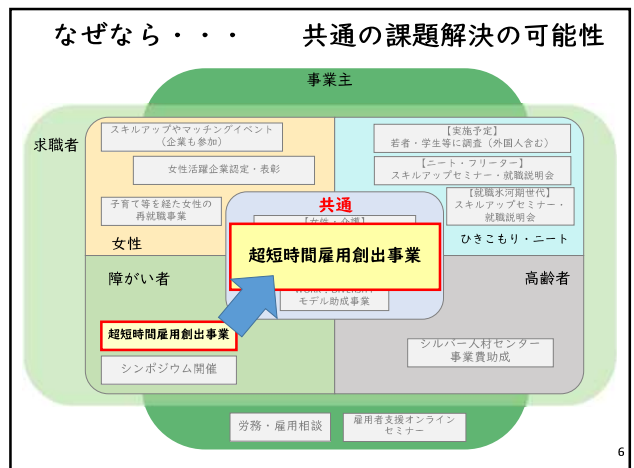
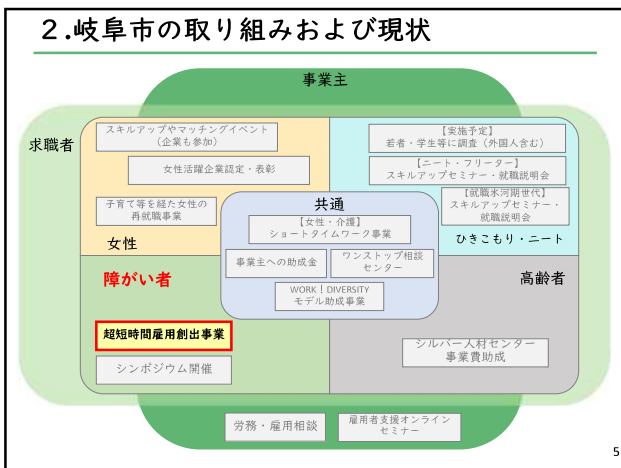
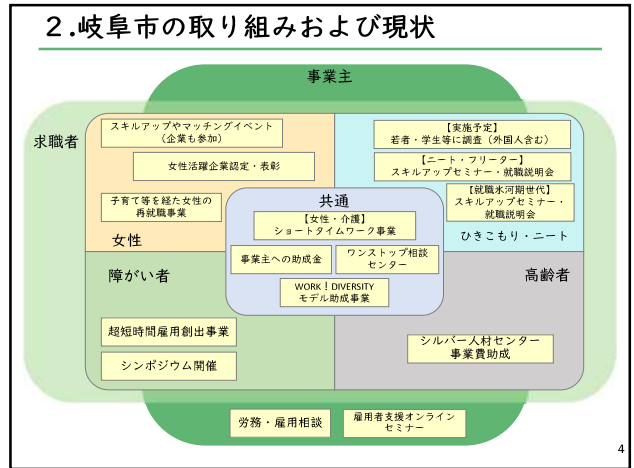
1/8人

※出典：日本財団（「WORK DIVERSITY」プロジェクト運営）

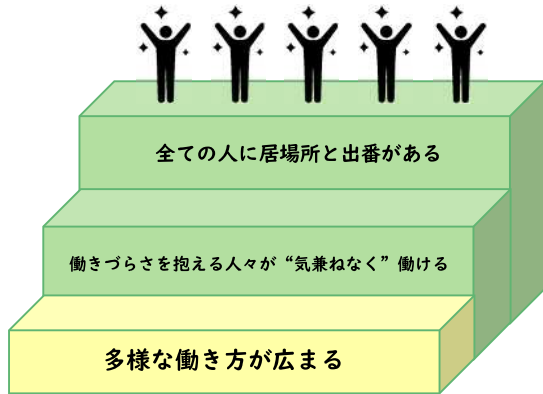
#### 雇用者

事業主

3



### 3.理想状態



7

### 4.理想状態への課題

#### 多様な働き方を広めるための課題

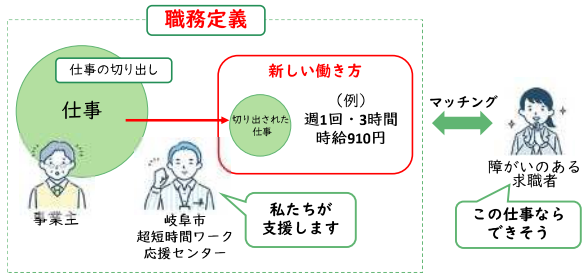
働きづらさを抱える人々	事業主
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世間一般的な働き方の常識が変わる</li> <li>・多様な仕事の選択肢がある</li> <li>・柔軟に働ける職場が存在する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性が上がるイメージを持ってもらうための活動が必要</li> </ul>



8

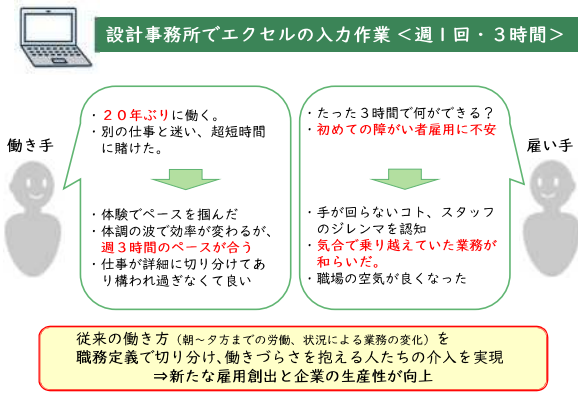
### 5.超短時間雇用とは

- ・週20時間未満の働き方（障がい者の法定雇用率に算入されない）
- ・**職務定義**（仕事の切り出し・時間や賃金の設定） ※重要なプロセス



9

### 5.岐阜市の超短時間雇用事例



10

### 6.超短時間雇用創出事業の現状

岐阜市超短時間ワーク応援センターが4月に開設  
⇒企業開拓、ワーカーの登録、両者のマッチング、雇用契約のサポート、就労後の支援に取り組んでいる

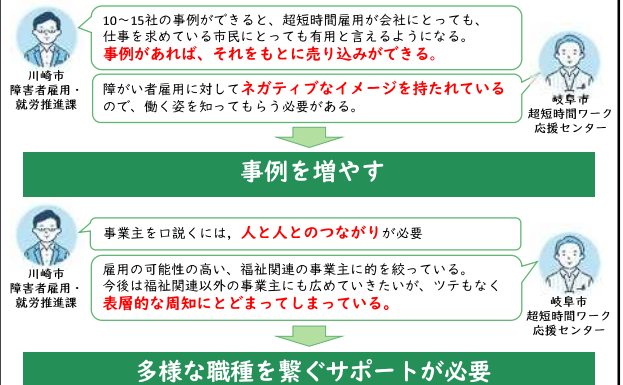
<企業アプローチ> (R4.4～R4.8末) ※累計件数

	R4年度	
問い合わせ、事前説明	42	⇒法定雇用率に算入されないことで相談が終わる例が多数あり、職務定義のメリットが伝わらない
職務定義、仕事の切り出し	6	
雇用、定着支援	3	⇒事業初年度で、まだまだ事例が少ない

初期段階での効果的な対策が必要

11

### 7.担当者の生の声を生かす



12



## 8.超短時間雇用を軸とした施策案

提案

①

### 単発雇用で事例増

イベントでの単発雇用で企業が超短時間雇用を体験。  
企業の障がい者へのネガティブイメージ払拭と説得材料を蓄積。

事例づくり

提案

②

### 企業開拓チーム編成

開拓には人脈が必須で、今は集中的に直接営業を行うべき時期。  
応援センターと企業を繋ぐため、民間の方を借りたチームを編成。

+

提案

③

### 誰でも超短時間労働を可能に

超短時間に切り分けた仕事を障がい者以外にも提供。  
市が職業紹介（斡旋）に参入することで門戸を広げる。  
令和7年開設予定のワンストップサービスの機能の一つとする。

障がい者以外への拡大

13

## 提案① 単発雇用で事例増

単発雇用 = イベントの設営など「1日だけ」の仕事

<川崎市における超短時間雇用の就業者数と単発雇用の件数>

年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	合計
就業者数	15	14	29	30	22	44	154
そのうち単発雇用	-	-	3	12	10	13	38



川崎市

- ・手間が少なく超短時間に取り組むハードルが下がる。
- ・体験することで企業はメリットを実感。
- ・単発雇用から実店舗での雇用に繋がる可能性も。

14

## 提案① 単発雇用で事例増

市内のマルシェ形式のイベントを一つの例として考えてみる

### 柳ヶ瀬商店街で開催される サンデービルディングマーケット（サンビル）



- ・月2回の定期開催
- ・出店者の多くはリピーター
- ・アーケードのため天候に左右されない

- ・同じ店舗で複数回続けられる
- ・実店舗等通常業務での雇用につながる
- ・出店者のつながりが広がる
- ・広報することで周知効果がある



【写真：桑田 真由】サンデービルディングマーケット  
【写真：野々原】SUNDAY BUILDING MARKET  
http://thebmrk.com/ryugasaki/

15

## 提案① 単発雇用で事例増

### サンビル・通常業務ともに超短時間雇用の需要あり

アンケート対象：サンビル出店経験者 77店舗

#### ・サンビル業務

人手がほしい	超短時間で雇用したい（人手が欲しいと回答したうち）	
はい	15人	19.5%
いいえ	62人	80.5%
	はい	8人
	いいえ	7人
		53.3%
		46.7%

#### ・通常業務（店舗の市内外不明）

人手がほしい	超短時間が会社に合う	
はい	9人	11.7%
いいえ	68人	88.3%
	はい	23人
	いいえ	54人
		29.9%
		70.1%

<参考> 柳商連加盟店アンケート（対象：6店舗+柳商連事務局）  
⇒「超短時間が職場になじむか」の問いに「はい」が3店舗

16

## 提案② 企業開拓チーム編成

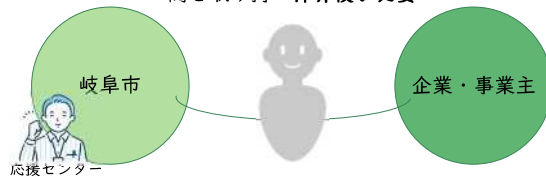


川崎市

初めは、事業主への個別対応と、受け入れてもらえる関係性が必要。

応援センターの、福祉以外へのアプローチは表層的

応援センターが受け入れられるよう  
間を取り持つ仲介役が必要

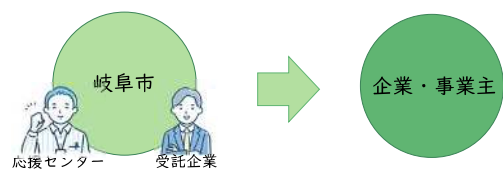


17

## 提案② 企業開拓チーム編成

### 民間企業へコンサルタント業務として委託

受託企業 + 応援センター + 市職員で  
チームを編成して事業主に対して営業



事例増の好循環を生むまでの初期段階を強かにサポート

18

提案③ 誰でも超短時間労働を可能に

岐阜市が職業紹介事業に参入すると、

支援センターのノウハウを活かす

超短時間の仕事を働きづらさを抱える全ての人々に斡旋できる

誰でも超短時間労働が可能に！

19

提案③ 誰でも超短時間労働を可能に

現状の課題

- ・超短時間の求人は障がい者のみ応募可能
- ・障がい者以外は、切り出した仕事を知るすべが無い

ハローワーク

求職者

仕事を切り出しても人が見つからない

事業主

障がい者以外は超短時間で働けない...

仕事の切り出しや障がい者のサポートだけでなく、ハローワークへ求人を出す支援も必要に

支援センター

20

提案③ 誰でも超短時間労働を可能に

岐阜市が職業紹介できれば...

- ・超短時間雇用に特化した紹介可能
- ・障がい者以外へも対象拡大

岐阜市

求職者

自分に合った仕事が見つかった！！

切り出した仕事が無駄にならない

事業主

仕事の切り出しや企業開拓に時間をさける

支援センター

21

提案③ 誰でも超短時間労働を可能に

令和7年度開設を見込むワークダイバーシティ推進に向けた岐阜市のワンストップサービス

同一機関による雇用契約までのサポートを実現するために、**職業紹介機能は重要**

事業主と求職者、双方の**利便性と安心感**が高まる

22

9. 実践スケジュール

多様な働き方が広まる

令和7年度

- ・ 全求職者（超短時間）の職業紹介開始
- ・ WDワンストップ開設

令和5・6年度

- ・ 単発事例増（サンプルなど）
- ・ 企業開拓コンサル委託

事例づくり

障がい者以外への拡大

23

10. 各提案の効果：KPI評価の考察

提案① 単発雇用で事例増  
イベント出店者などが関心を持ち説明会へ参加する

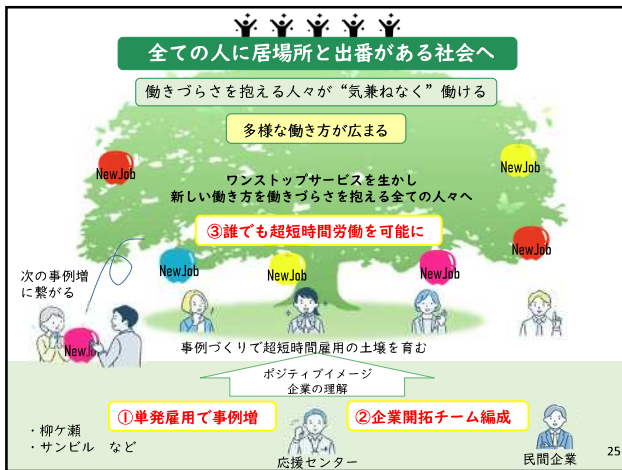
提案② 企業開拓チーム編成  
超短時間雇用に理解のある企業とのつながりが広がる

提案③ 誰でも超短時間労働を可能に  
超短時間雇用利用者の増加

KPI  
仕事の切り出し（職務定義）件数の増加

超短時間で雇用（通常及び単発）する店舗が増加

24



提案3


 寄り添う福祉  
**『支えあいとGMP』**  
 若手プロジェクトチーム 3班  
 メンバー：浅野、稲熊、青木、松久、山田、横山


Menu 寄り添う福祉


1. めざすところ
2. 社会的背景
3. テーマの背景
4. 理想状態を考える
5. 理想と現状のギャップ
6. ギャップを解消するために
7. 次の段階に向けた支援策
8. 提案する施策の全体像
9. まとめ


1. めざすところ 寄り添う福祉


寄り添う福祉とは…

**人と人とのつながり = セーフティーネット**


  
多様性の尊重

  
活躍の場づくり

  
気にかけてあう関係性

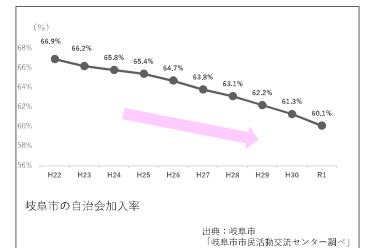
  
安心感のある暮らし

**市民みんながチームの一員**

One Team 

2. 社会的背景 寄り添う福祉

**岐阜市では、自治会加入率は低下傾向**



年度	加入率 (%)
H22	66.9%
H23	66.2%
H24	65.8%
H25	65.4%
H26	64.7%
H27	63.8%
H28	63.1%
H29	62.2%
H30	61.2%
R1	60.1%

出典：岐阜市「岐阜市市民活動交流センター調べ」

2. 社会的背景 寄り添う福祉

**孤独を感じる人は、全体の36.4%**

(質問) あなたはどの程度、孤独であると感じることがありますか。

程度	割合 (%)
少しはある・常に感じる	14.5
時々感じる	17.4
たまに感じる	38.9
決してない	23.7
不明	0.9

出典：内閣府孤独・孤立対策担当室「人々のつながりに関する調査調査（令和3年）調査結果の概要」

**孤独・孤立化**

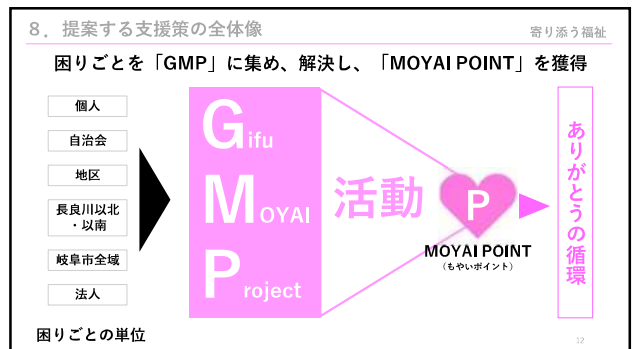
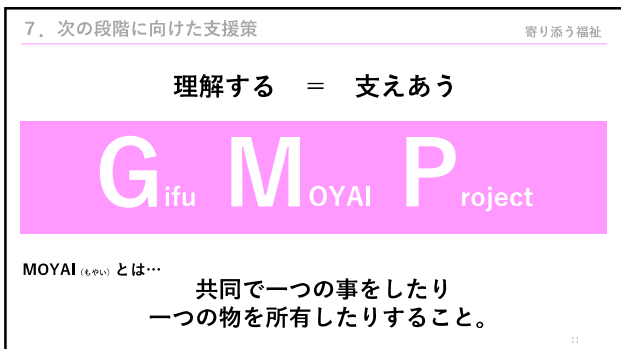
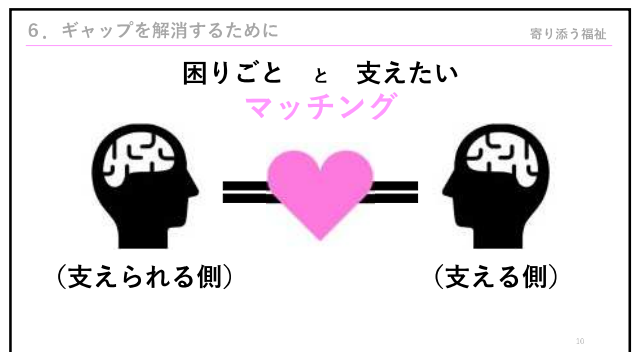
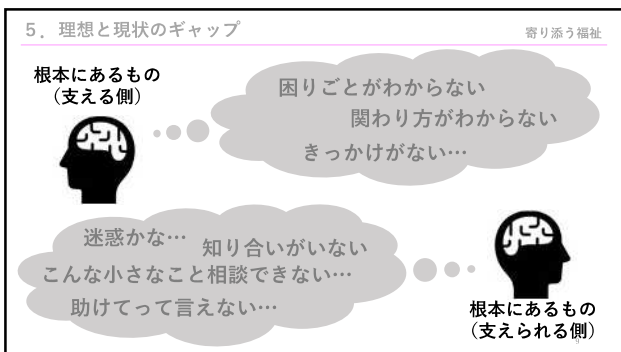
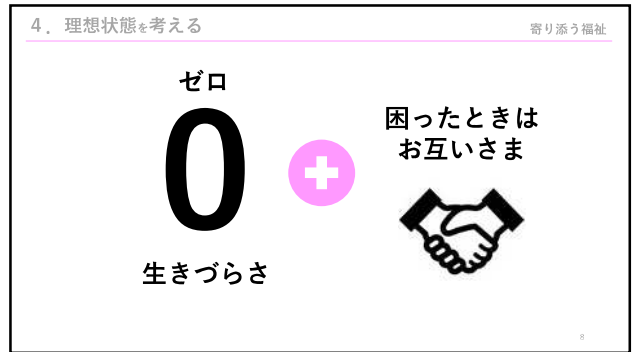
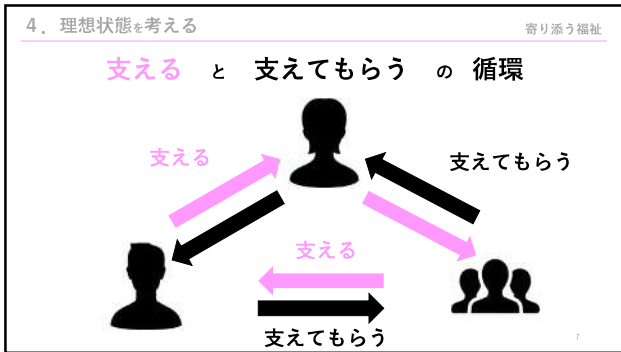
3. テーマの背景 寄り添う福祉

ひきこもり  
 孤独・孤立  
 生きづらさ  
 高齢  
 障がい  
 生活困窮  
 子育て  
 外国人

疎遠な関係

人間関係の希薄化

**共生・共助  
支えあいの必要性**



8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

「誰でも」「いつでも」「何度でも」「気軽に」「人のために」

G  
M  
P

ifu  
OYAI  
roject

誰でもプロジェクトに登録できる

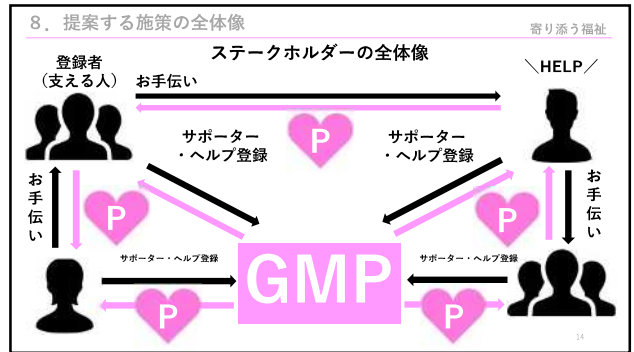
いつでもプロジェクトに参加できる

何度でもプロジェクトに参加できる

気軽にお手伝いできる

人のために活動できる

MOYAI POINT  
(もやいポイント)



8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

ステークホルダーのメリット

支えてほしい人

- ・困りごとの解決
- ・つながり
- ・意欲の湧出
- ・感謝の発信

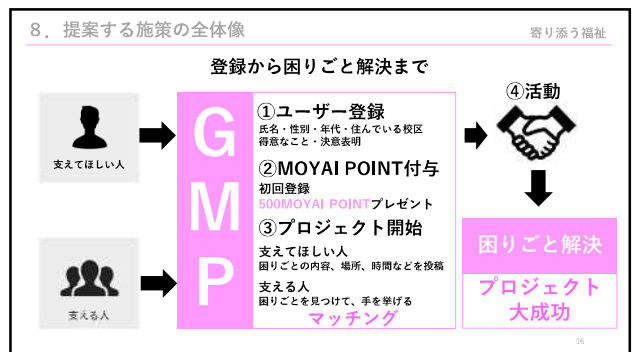
- ・社会資源の創出
- ・地域課題の解決
- ・防災対策
- ・つながりの見える化

ゼロ + 無限大

生きづらさ + 人のつながり

支える人

- ・達成感
- ・やりがい
- ・つながり
- ・感謝の伝播



8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

MOYAI POINTの循環

困りごと解決

プロジェクト大成功

感謝の分だけ MOYAI POINT を送る

支えてくれた人をフォローする

活動日記を公開して MOYAI POINT を獲得

MOYAI POINT の寄附OK

- ・有効期限は獲得から6か月
- ・換金性なし
- ・GMP内のみ有効
- ・初回登録、活動日記・ありがとう日記公開時に付与

8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

GMPで解決できる困りごと

※ポイントは目安

困りごとの例


- ✓ 家の中の電球を取り換えてほしい (5 Pt)
- ✓ 子育ての悩みを聞いてほしい (10 Pt)
- ✓ 子どもにギターを教えてほしい (200 Pt)
- ✓ 近所の外国人と交流するため、通訳してほしい (300 Pt)
- ✓ 介護用の車いすの選び方を教えてほしい (150 Pt)
- ✓ 不要になったランドセルを譲りたい (100 Pt)

etc..


8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

**GMPのストーリー**


動かしたMOYAI POINT数で、称号が**変化**




**MOYAIたまご**  
(初期)




**かけだしMOYAI**  
(累計700Pt)



**MOYAIエキスパート**  
(累計1,500Pt)



**Pro MOYAI**  
(累計2,500Pt)



**MOYAI王**  
(累計5,000Pt)

・やる気↑  
・信頼の見える化

8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

**地域のコミュニティを生かした事例①**



**コミュニティデザインラボ**  
(宮崎県北諸県郡三股町)

**コンセプト**  
住民一人ひとりの暮らしと生きがいを地域とともに創る「地域共生社会」

**仕組み**  
課題を見つけ、地域で考えプロジェクト化し、プレイヤーを集めて課題に取り組む

**事務局**  
三股町社会福祉協議会

8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

**地域のコミュニティを生かした事例②**



**地域コミュニティアプリ**  
「PIAZZA」

**コンセプト**  
人々が支え合える街をつくる

**仕組み**  
ユーザー登録をし、情報のやり取り、相談、物の譲り渡しなどをアプリを介して行う

**事務局**  
PIAZZA株式会社 (東京都中央区)  
※連携協定締結自治体多数

**PIAZZA**

※2022年から「岐阜エリア」が追加  
岐阜青年会議所協定締結・岐阜市後援  
広報さふ.令和4年8月15日に掲載

8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

**支えあいのプラットフォームづくり**

**専用アプリの開発**

困りごとの検索・参加・活動日記の公開、MOYAI POINTの受け渡しができるアプリ「MOYAI APP (仮)」を開発

**目標指標**

導入後1年：登録者 1,000人 動いたMOYAI POINT 5,000  
 導入後3年：登録者 3,000人 動いたMOYAI POINT 15,000  
 導入後5年：登録者 5,000人 動いたMOYAI POINT 30,000

**GMP**




8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

**MOYAI APP 開発・導入計画**

令和5年度から7年度の間開発から実証実験を経て導入

年度	R5年度	R5年度	R6年度	R6年度	R7年度	R7年度	R8年度
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期
GMPアプリ構想策定	動機策定	予算化					
アプリ制作業者決定・開発			開発契約	開発			
実証実験・導入					実証実験	導入	運用開始

**GMPの所管** 市民協働推進部 或 福祉部

**GMP**

8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

**MOYAI APP開発・運用にかかる経費**

**Gifu**  
**M**YOYAI  
**P**roject

**アプリ開発・運用費**

開発費	5,000,000円
保守・運用	1,500,000円/年

(参考) ぎふし子育て応援アプリ

アプリ導入費用：4,806,000円 (H28導入)  
 保守管理委託料：1,493,000円 (R4予算)  
 委託先：株式会社スマートバリュー

8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

アプリ開発にかかる交付金などの財源

**デジタル田園都市国家構想推進交付金**

交付金の概要

- ①他地域の優良モデル等を活用した事業
- ②サテライトオフィスの施設整備等 に交付

対象経費：ハード経費（設備・システム導入費など）  
ソフト経費（人件費、サービス利用費など）

補助率：3 / 4 以内

25

8. 提案する施策の全体像 寄り添う福祉

GMP プロモーション戦略 GMP

- ・市Twitterで発信  
・リッチメニュー掲載  
市LINE下部のメニューに常時掲載
- ・インフルエンサー  
称号が高いユーザーによる自身のSNSでの発信
- ・特設HP作成  
特設HPに登録者数や解決した困りごとの数を掲載
- ・広報誌  
・市刊行物、発行物  
アプリの二次元コードを掲載
- ・紹介キャンペーン  
導入から1年間はアプリを紹介したユーザーにボーナスポイントを付与
- ・ポスター  
デジタルサイネージ  
バスのサイネージに掲載

26

9. まとめ 寄り添う福祉

GMPは… GMP

市民による **MOYAI** 形成を促進

人と人とのつながり = **セーフティネット**

- 多様性の尊重
- 活躍の場づくり
- 気にかけてあう関係性
- 安心感のある暮らし

市民による、市民のための、**寄り添う福祉**の実現





## 市役所の業務改革

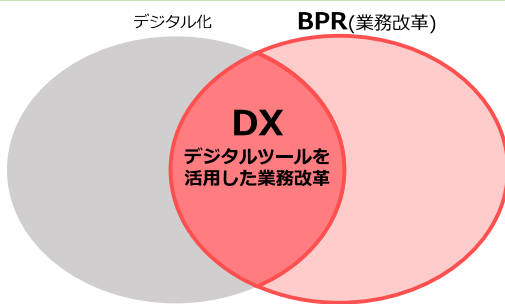
4班 赤塚 加藤 福島 藤井 真鍋 島塚

### 業務改革の定義

業務改革 = BPR (Business Process Re-engineering)

業務プロセス全体を見直し  
再構築すること

### BPRとDX



### 岐阜市の取り組み(例)

- ▶ 政策総点検(H30年度)
- ▶ サービスアップ運動
- ▶ 岐阜市行財政改革プラン(R2~R6)
- ▶ 岐阜市DX推進計画(R4~R7)
- ▶ **Gifu DX-P** NEW

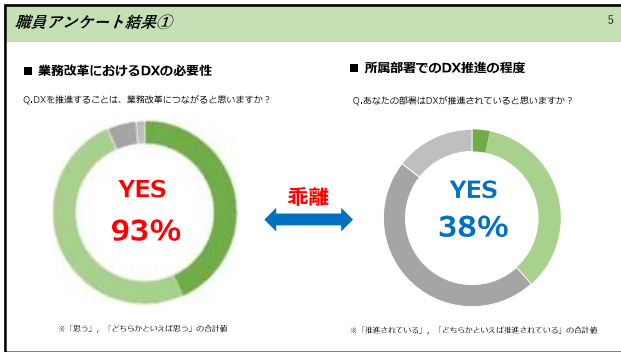


## 課題

### 職員アンケート

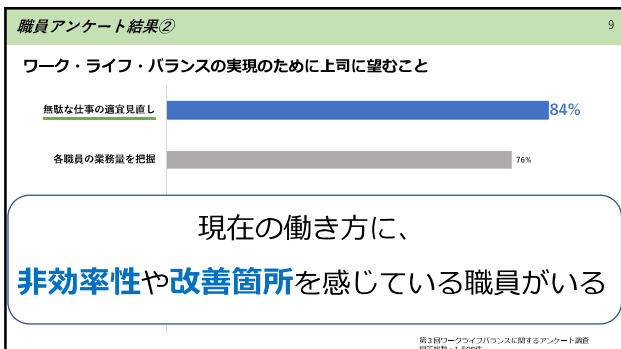
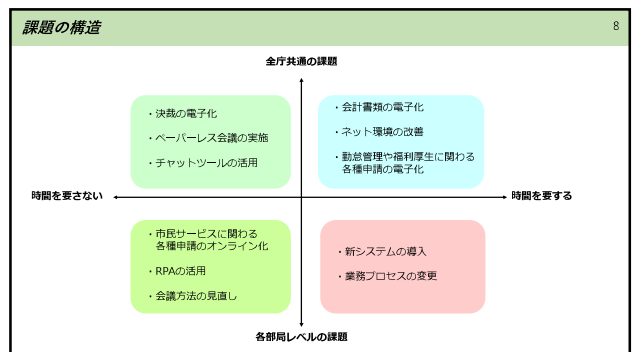
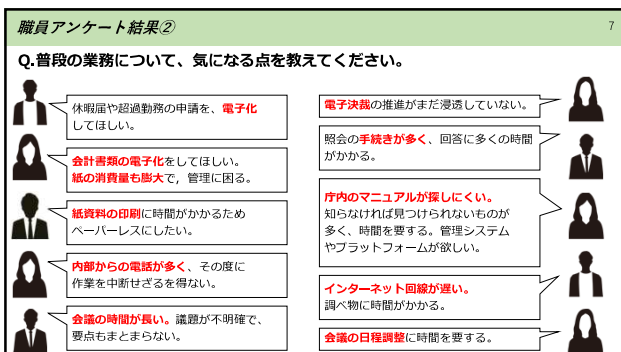
市役所の業務改革に関するアンケート

実施期間：6月24日～7月8日  
回答総数：704



考察I

DXの必要性は認識している！  
が・・・  
現状はあまり推進されていない



考察まとめ

■ 考察 I  
DXの必要性は認識しているが、現状はあまり推進されていない

■ 考察 II  
現在の働き方に、非効率性や改善箇所を感じている職員がいる


課題 11



# 業務改革の 実行力

原因 12

- 1.問題が認識できていない
- 2.日々の業務で手一杯
- 3.具体的な改革方法がわからない
- 4.改革を提案する勇気がない
- 5.上司や同僚の理解が得られない



# 提案

提案 13



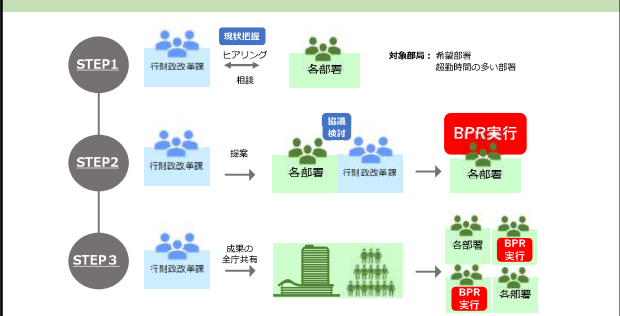
## 庁内BPRコンサルティング制度

庁内BPRコンサルティング 14

BPRのスキルを持つ職員が、  
現場に即したBPRを提案



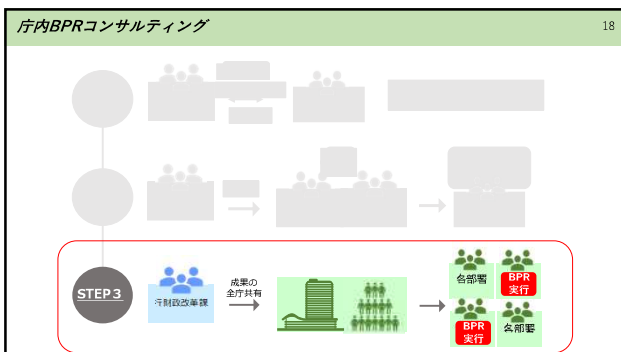
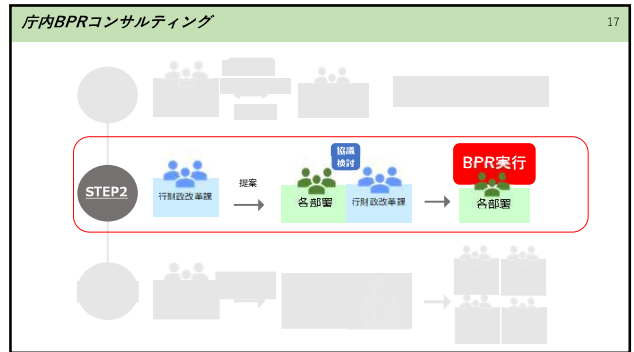
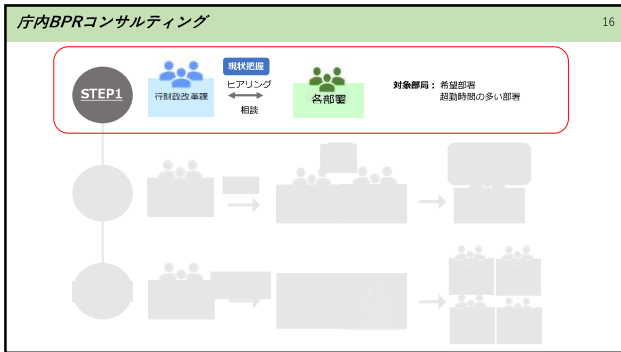
庁内BPRコンサルティング 15



**STEP1** 行政改革課 ↔ ヒアリング 相談 → 各部署 (現状把握) 対象部署：希望部署 課題時間の多い部署

**STEP2** 行政改革課 → 提案 → 各部署 (協議 検討) 行政改革課 → 各部署 **BPR実行**

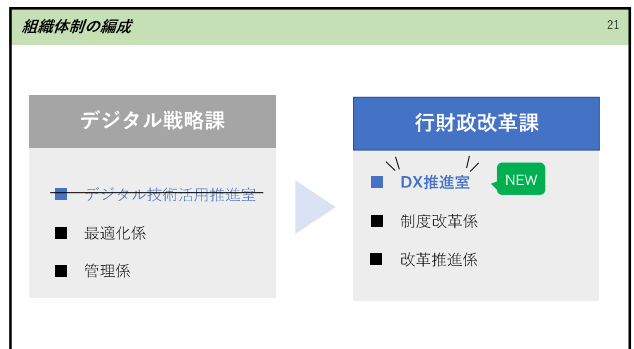
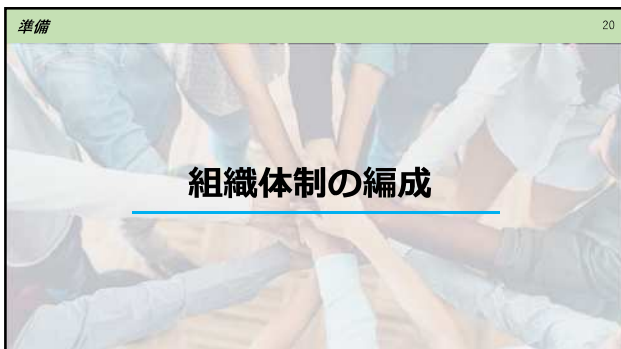
**STEP3** 行政改革課 → 成果の 全庁共有 → 各部署 **BPR実行** 各部署 **BPR実行**



庁内BPRコンサルティング 19

**実施効果**

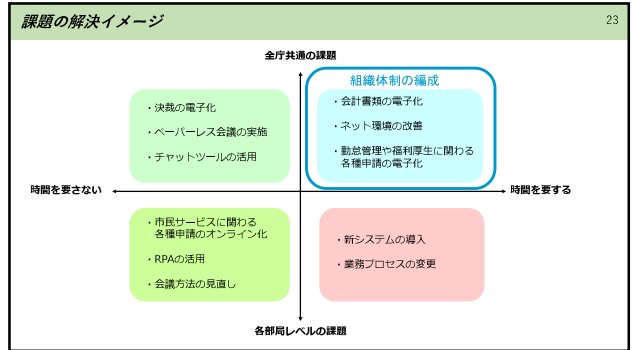
- ・ BPRの**確実な実行**
- ・ 内部事情に精通した職員による効果的なBPR
- ・ 手段や手順等に迷回りが無い
- ・ 万全なフォロー体制による心理的安全



組織体制の編成 22

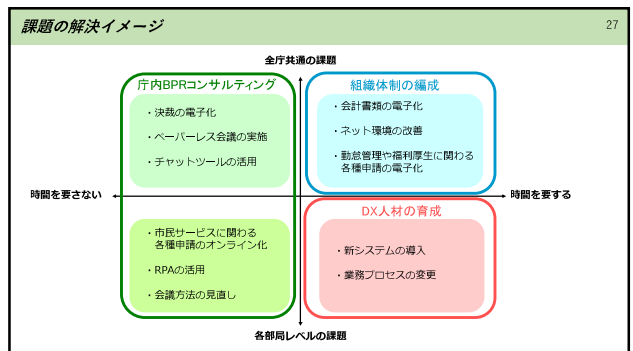
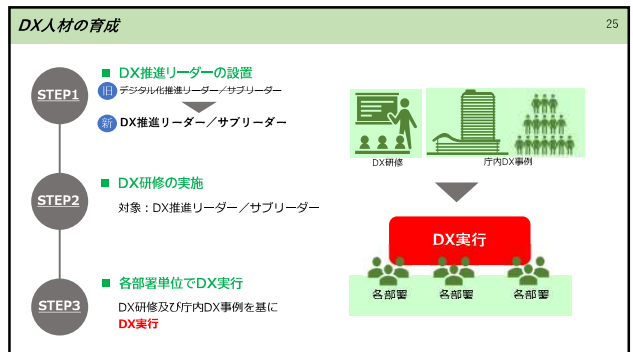
■ 新たな体制における取り組み

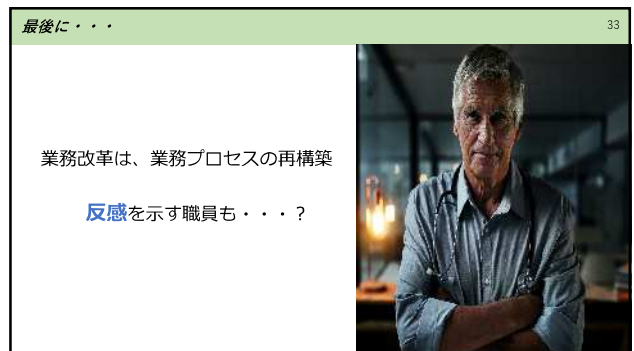
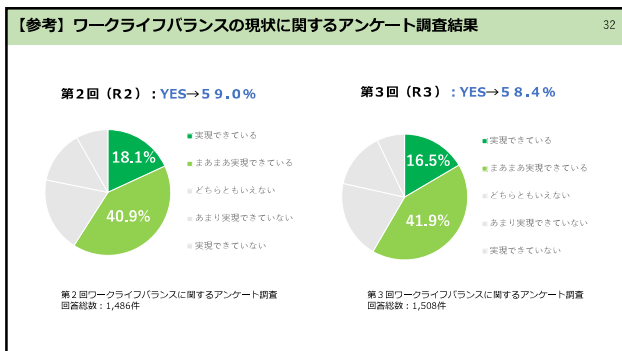
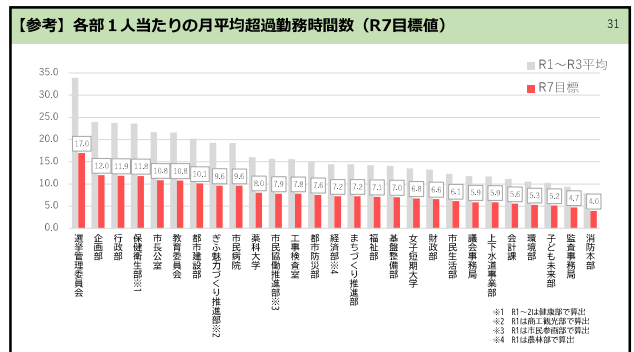
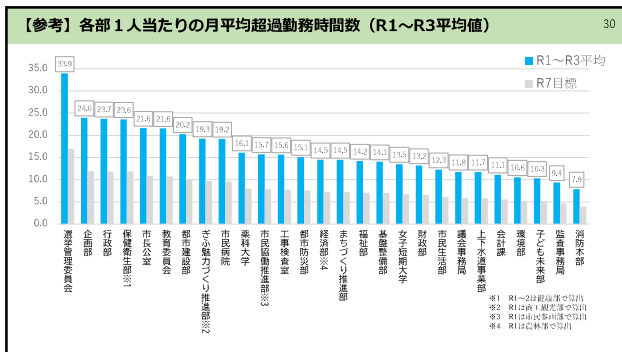
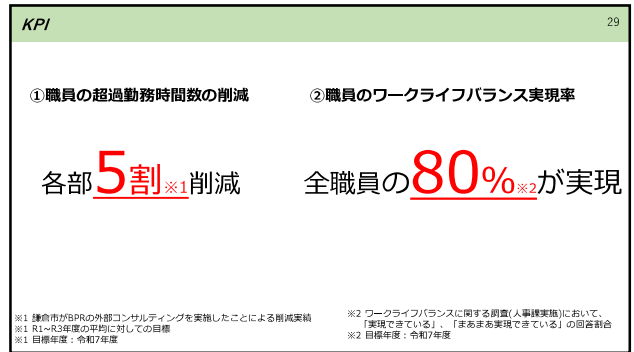
- ① 行財政改革課職員のBPRスキルの習得
- ② 庁内BPRコンサルティング
- ③ 全庁共通の業務に関する課題の解決 ※後述



持続的なBPRに向けて 24

DX人材の育成





一方通行ではなく、  
各部署と**伴走**することが重要！



業務改革のカギは、  
**実行力**